

日本学術会議発生生物学分科会 2018年6月14日 16:00-17:25

1) 役員を選出

冒頭に武田 洋幸 学術会議委員より委員長に上野直人委員が推薦され、了承された。続いて上野委員長より副委員長に糸 昭苑 委員が、幹事に林 茂生委員が指名され、了承された。

2) 24期の活動方針

▶ 特別展「卵からはじまる形づくり〜発生生物学への誘い」

武田委員より国立科学博物館での発生学展示の成功(2017年)を受けて今年度は以下の要領で実施予定との説明。本展示会期中には、同じ駒場キャンパスで生物学オリンピックの日本国内本選大会の関連行事も行われている。

開催時期：平成30年7月21日~9月24日

主催：日本発生生物学会、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

意見

林 啓発活動にはWebリソースの蓄積を行うことがのぞましい。

城石 ウェブサイトからの発信が効果的、遺伝研の遺伝学電子博物館が更新予定。

上野 巡回展化が望ましいので各大学博物館と討議してどこが実施主体になるかを検討する。

▶ 高校生物教員、高校生向け実験講座

理研CDB、日本発生生物学会共催の「高校教職員のための発生生物学実践講座」、
「高校生のための発生生物学実習講座」について林 茂生委員から説明があった。

基礎生物学研究所とスーパーサイエンススクール指定校である愛知県立岡崎高等学校の連携によりおこなわれた「両生類胚操作実習」について上野委員より説明があった。

インターネット生中継を用いた発生過程の観察 機会の提供

基礎生物学研究所がインターネットメディアであるニコニコ生放送と連携し、アフリカツメガエル胚の受精から孵化までの過程、およびカブトムシの蛹化および羽化の過程をインターネット生中継し高いアクセスと反応を得た(上野委員)。

▶ 武田委員より大型施設の予算要求マスタープラン (>十数億円/件) の募集状況について話題提供があった。物理系では加速器など。70件余の申請。学術

会議。文科省の審議を経て7件がロードマップに残っている（ゲノムなど）。マスタープラン2020を作成する前提で、現在研究機関、学協会にアンケートが行われている。今後のマスタープランは、文科省だけをターゲットとするのではなく、AMED、厚労、その他の省庁、研究資金提供組織からの予算獲得の方策として使用できるものとなる。

城石 生物系で一体化したコミュニティーの総意に基づく要求でないと取り上げられにくい。

- 遺伝学会で進められている科学用語の修正を受けて発生学でも進めるべきか？

城石 遺伝学用語については医学会との調整を計画中。いずれの分野でも、専門家より高校教科書での使われる用語が問題である。

林 発生学では幹細胞、再生医療、などの分野で社会の注目が高まっている中で用語の定義よりも時事解説的なもので啓発をはかった方がよいのでは？

- **国立沖縄自然史博物館設立構想**
岸本委員より設立に向けての活動の経緯が説明された。